

知財業務のAI革命：3つのアプローチ徹底比較ガイド

現代の知財部門の課題



グローバル化・案件増加
慢性的な人材不足

AIエージェントへの進化 (2025-2026)



Manus (汎用AIエージェント)



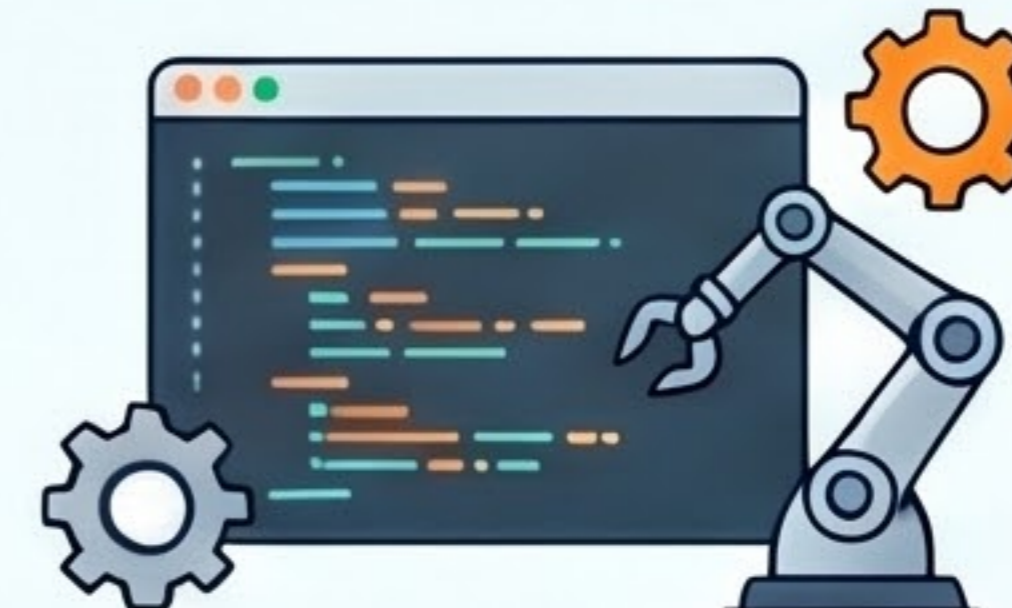
ユーザーの最終目標に対し、自律的に計画を立てて複数のステップを実行。J-PlatPat等の外部DBを連携検索し、非構造化データから発明の種を発掘します。

主な得意領域



広範な調査・競合分析

Claude Code (コーディング特化AI)



ターミナルで動作し、「Skills」機能により自社独自のワークフローを自動化。1.5万字の明納書を約1時間で作成するなど、極めて高いカスタマイズ性を持ちます。

主な得意領域



独自自動化・高度ドラフト

知財特化型生成AIツール



AI Samurai ONEやPatentfieldなど、知財業務に最適化されたSaaS。特明発掘から中間処理までを一括通貫で支援し、導入後すぐに効果を発揮します。

主な得意領域



定型実務全般・大量処理

多角的な比較分析

● 即効性と導入ハードルの違い



● セキュリティと機密性の確保



「すぐに効果を出す」ための推奨導入シナリオ



STEP 1

即効性重視のパイロット導入
ボトルネック特定、特化型ツールのトライアル開始。人間チェック (Human in the Loop) を組み込み、品質検証。

STEP 2

中長期的な独自DX基盤の構築
社内リソース活用、Claude Codeで自社専用自動化ワークフローや独自記載ルールの明納書生成システム開発。

STEP 3

戦略的高度化へのハイブリッド活用
定業を効率化、深い時間でManusによる競合動向自動収集。R&Dへの戦略提案へシフト。

導入時の重要リスク管理



1. 機密情報の徹底保護
未公開入力時は、学習利用有無やサーバー所在地など、セキュリティポリシーを厳格に確認。



2. ハルシネーションへの対策
AIの嘘の可能性。独立クレームや技術パラメータは、必ず弁理士等の専門家が最終確認。



3. リテラシー教育への投資
プロンプト設計や運用ルール整備、AIを使いこなすための教育投資が導入成功の最大の鍵。

評価項目	Manus (汎用)	Claude Code (閉鎖)	知財特化型ツール (SaaS)
即効性	中	低～中	高
カスタマイズ性	高	極めて高	中～高
セキュリティ	低～中	中～高	高
必要な知識	プロンプト設計	プログラミング・API	ツール操作・知財実務